

主要事務事業戦略シート

令和3年度
中央区
中央区長 藤代 真史

局・区の使命	安全・安心なまちづくりに向け、地域・関係機関と協働して施策を推進するとともに、地域課題を解決するため、町内自治会等の地域団体や区内の経済関連団体とも連携し、地域コミュニティの活性化を図ります。
事業選択・重点化・見直しの考え方	安全・安心のまちづくり、住民同士の支え合い、千葉の顔としての魅力向上、活力と賑わいの創出、市民主体のまちづくりを推進するため、より効果が高い事業に行政資源をスライドさせる。 見直しする予定の事業：地域活性化支援事業

No.	新規	施策NO.	施策	事務事業（業務）名	事務事業（業務）概要		事務事業（業務）に必要な行政資源								課題抽出		今後の方向性					所管課		
					目標（目的）	主な内容	ヒト			モノ		カネ		行政コストの合計額 （単位：百万円）	<参考> 前年度決算額	主な実績・効果	分析・評価	改善・改革の手法	今後の方向性	改善・改革の手法	今後の方向性		改善・改革の手法	今後の方向性
					【（事務事業（業務）を行い）誰（何）が、どのような状態になることを目指すのか】	【サービス等の提供内容や提供先】	正規職員	任用計職年員数	コスト換算 （単位：百万円）	土地、建物、車両、システム等の固定資産	コスト換算 （単位：百万円）	対象年度の予算額	コスト換算 （単位：百万円）											
1		3-5-1	市民参加・協働の推進	地域活性化支援	地域団体や市民活動団体などの自主的な取り組みに対し助成することで、地域課題解決や地域活性化を推進する。	地域課題解決や地域活性化のための自主的な取り組みを行った地域団体や市民活動団体などに対し、当該活動費用の一部を助成する。	0.3	0.0	3	なし	0	歳出予算額4百万円 （うち一般財源4百万円） 【主なもの】 地域活性化支援事業補助金4百万円	4	7	歳出決算額2百万円 （うち一般財源2百万円）	・地域活性化支援事業補助（件数） 令和2年度 13件 令和元年度 15件 平成30年度 19件 （助成額） 令和2年度 1,599,343円 令和元年度 2,668,710円 平成30年度 3,183,778円	申請件数の伸び悩みや申請内容の「マンネリ」化、あるいは地域活性化への貢献が乏しいと判断されることなどにより不採択となる事例も生じており（追加募集を行っても充足されない）、これに伴い不額の発生といった状況も生じている。 高齢化等の影響により地域の活動が縮小傾向にあることや事業の対象者が限定されて（きてしまっ）ていること、また事業の「自走」に向けた展開が見えてこない（殊に助成対象期間後の資金調達の問題）ことなどが要因となっているものと考えられる。	⑤ 連携・協働	申請団体数の増を図るため、地域運営委員会等の各種会議等の場での積極的なPRを継続するとともに、将来的な大学・専門学校等との連携を視野に入れ、地元学生等へのPRなど、更なるPR強化に取り組む。 また、他都市等における地域活性化の取組の成功事例などを検証し、民間事業者等、助成対象者の拡大を検討する。	⑥ ICT活用	メルマガやホームページにおいて、事業の成功例等について紹介する（ショートムービーのホームページ上の公開なども含む）とともに、各地域活動団体等とのオンライン会議等を通じて、PRの機会を増やしていく。	⑧ その他	将来的な行政のプラットフォーム化なども念頭に置きつつ、次年度において、地域課題・行政課題を抽出し、その解決に携わる地元団体等と学生、「Cord for」等非営利民間団体をマッチングさせる事業の実施の可能性を検討する。	中央区 地域振興課
2	●	3-5-1	市民参加・協働の推進	中央区ふるさとまつり	中央区の地域特性や区民の自主性を十分に活かしながら、区としての一体感の高揚、区民意識と地域の連帯感の醸成を図る。	中央区ふるさとまつりの実施に伴う中央区ふるさとまつり実行委員会の事務局として、会の運営や事業実施を支援する。	0.2	0.4	3	なし	0	歳出予算額4百万円 （うち一般財源4百万円） 【主なもの】 中央区ふるさとまつり事業補助金4百万円	5	8	歳出決算額1百万円 （うち一般財源1百万円）	・中央区ふるさとまつり（来場者数（延べ人数）） 令和2年度 まつり中止 令和元年度 110,000人 平成30年度 115,000人 （決算額） 令和2年度 300,000円 令和元年度 3,289,972円 平成30年度 3,289,910円	令和2年度、令和3年度と新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、中央区ふるさとまつりの開催を中止した。このため、行政、実行委員会のいずれにおいても運営ノウハウや「まつり」の意義に対する意識の部分で、ある意味「途絶」が生じる可能性がある。 また、これまで中央区ふるさとまつりは、開催場所の立地などもあり、中心市街地への「ヒト寄せ」的な色合いが強いものであったが、その経済的効果に疑問を感じる商店街が出てきているなど、政令指定都市移行を機に事業が開始されてから30年が経過しようとする中、「まつり」事業自体のあり方などについて再検討をすべき時期にも来ていると考える。 加えて中央区では、「まつり」を後援（他区は「共催」）する形での関与となっており（実行委員会の構成団体ではない）、このあたりについても早急な検討を要するものとなっている。	③ 整理統合	区内においては、既に多数の大規模イベント等が開催（千葉湊大漁祭りや桜まつり、民間ではJFEちばまつりなど）されており、こうしたものの相乗効果も期待し、整理統合が可能か、関係者、関係団体と意見交換を開始する。その際には、開催会場（⑦資産活用 eg 中央港・ポートパーク、蘇我スポーツ公園）、民間事業者などとの連携（⑤連携・協働 eg JFE、JEF）も併せて検討する。	⑧ その他	政令市移行30周年と機を同じくする、第30回「まつり」について、事業内容等を庁内外と調整する。	中央区 地域振興課		